

患者さんの声を取り入れた 可搬型酸素濃縮装置「さざなみ」が初めて利用されました

「さざなみ」は、横浜市立大学 学術院医学群 呼吸器病学 しんかい まさはる 新海 正晴准教授を責任者とした呼吸器病学教室のメンバーによるアイデア提案等の技術指導により、エア・ウォーター・メディカル株式会社と協同して開発されました。その後、試用期間を経て、平成 28 年 12 月より、本学附属病院で初めて正式に導入され、現在 3 名の患者さんにご利用いただいています。

「さざなみ」の最大の特徴は、一度置き場所を決めたらそこに固定したままとなる従来品と異なり、伸縮自在のハンドルと大きな車輪を搭載し、生活の場面に合わせて患者さんが酸素濃縮装置と共に家庭内を移動できることです。その他にも、患者さんが求める機能と医師が臨床上必要とする機能をフルスペックで搭載した製品となっています。

【その他製品概要】

- ・症状に合わせたきめ細かな処方流量に対応した「微量設定機能」
- ・より幅広い患者さんに対応し、長時間の利用が可能となる「同調モード」
- ・「労作時」/「安静時」/「就寝時」の目的に応じた流量選択可能なりモコン
- ・火災防止機能搭載

※現在は、附属病院とその関連病院のみで賃貸借が可能です。

今後、取り扱い施設を拡大していく予定です。

【患者さんの声】

リモコン機能があるのが特に良いと思います。(自宅の) 1 階に置いてある酸素濃縮器の酸素流量設定を 2 階から変更することができます。家内が、従来のものと比べ動かしやすく、掃除しやすくなったと喜んでいました。
(70 代：男性)

【しんかい まさはる 新海 正晴准教授コメント】

在宅酸素療法は、保険適用から約 30 年が経過し、慢性呼吸不全患者さんの日常生活を支える治療として確固たる地位を築いています。用いられる酸素濃縮装置の種類も増え、それぞれ進化を遂げていますが、患者さんと医師、双方の意見を取り入れて開発されたものは多くありませんでした。そこで、常時傍に置いておかなければならない患者さんの趣向等を尊重しつつ、ウォーキング等による身体活動性向上を考えて、自由に移動させながら在宅酸素療法を実施することをコンセプトにした装置を開発することになりました。

引き続き、我々呼吸器病学教室は、患者さんのアンケート結果を踏まえ、装置の多様性から個別化を考えながら、より良い次世代在宅酸素濃縮装置開発に取り組んでいきます。



【さざなみ携帯イメージ】

